



西村伊作は中学生の頃から夢をもって、授業中にもこっそり楽しい学校や住宅の図面などを描いたりしていた。この夢から大正10年に小さな学校が生まれました。これが文化学院です。

小さくても良いもの、たとえ質素であっても美の調和があれば、心の愉しさがあれば、それは一つの大きな贅沢なのではないか？偉大なもの、豪華なものには手が届かなくても、小さく、さ、やかなもので美しいものには手が届くであろう。みんなの忘れかけた幸せは案外そこにあるのかも知れない。

伊作はそれをやって見せたのである。

館長 西村八知

常設展Ⅰ「西村伊作」

西村伊作(1884-1963)は和歌山県新宮市に生まれ、幼くして熱心なクリスチャンであった両親を失くし、母方の山林主に引き取られ、莫大な遺産を引き継ぎました。自ら独学で絵画、陶芸、建築を学び、多くの著作と住居の設計を手がけ生活の改善、欧米化を提唱しました。「生活を芸術として」を実践し、芸術家たちの知己を得て、後に彼らと共に理想の学校を設立しました。



伊作とその家族 1925年(大正14年)



西村伊作《自然の児》油彩
「科学と文芸」創刊号に掲載

常設展Ⅱ「文化学院の教育に携わった芸術家たち」

西村伊作が1921年神田駿河台に設立した「文化学院」創立のメンバーには与謝野晶子・鉄幹夫妻、石井柏亭等がいました。その後も佐藤春夫、菊池寛、川端康成、小林秀雄といった作家、評論家、また中川紀元、有島生馬、山下新太郎などの芸術家、戦後も谷川徹三、遠藤周作、宇野重吉、美術では棟方志功、脇田和、山口薫、佐藤忠良という一流の芸術家たちによる教育が行われ、現在もその歴史を踏まえたユニークな教育が行われています。

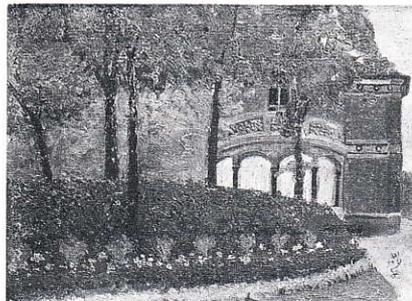


文化学院創立当時の規則書 1921年

創立期—中期



石井柏亭《ミュンヘン風景》1912年 水彩



与謝野晶子《リュクサンブル公園》油彩



佐藤春夫《鯛と貝》1937年 油彩

戦後—現在



棟方志功《パリ》1959年 木版



山口薫《パリ郊の運河》水彩



村井正誠《顔》油彩

入館料：一般 800円 大・高 600円 中・小 400円
団体割引、身障者割引有り

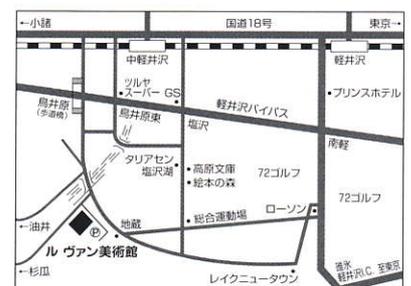
ミュージアム ショップ：Le Vent

カフェテラス：Rolling Pin

コンサート：8月13日(土)日渡奈那ギターの夕べ
8月19日(金)サバトス ボサノヴァ コンサート
開場17:30 開演18:00 3,000円(ドリンク付)

協力：文化学院・ギャラリー サカ

- JR長野新幹線「軽井沢駅」下車または、乗継ぎ しなの鉄道「中軽井沢駅」下車車で3km
※夏期は両駅より路線バス運行
- 上信越自動車道「碓氷・軽井沢IC」より12km
軽井沢バイパス18号「鳥井原」交差点(歩道橋)より杉瓜方向へ1.5km
- 駐車場 20台収容



このチラシをご持参の方は4名様まで割引致します。